

(臨床研究に関する公開情報)

長崎医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合やお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 大腿骨近位部骨折患者の早期離床に向けた整形外科病棟による介入の実態調査

[研究責任者] 6B病棟看護師 野崎 友香

[研究の背景]

わが国の65歳以上の人口は年々増加しており2025年以降には団塊の世代が後期高齢者となり国内の後期高齢者数が3,653万人を超えるとされています。医療経済の負担が大きくなる中で、高齢者がどのように日常生活動作を維持し生活者として社会で過ごしていくかが重要視されています。高齢者の中で介護が必要となる要因の13.0%は骨折・転倒によるものとされており、大腿骨近位部骨折は寝たきりの原因となるばかりではなく受傷後の生命予後を確実に短縮させます。医療経済的問題と併せて大きな社会問題とも考えられています。大腿骨近位部骨折の術後は早期離床を行い出来る限り受傷前の日常生活動作まで回復させ、再転倒を予防することが重要となります。

今回我々は当院でも症例が多く、代表的な高齢者疾患である大腿骨近位部骨折患者の早期離床に対する取り組みから、離床の遅延につながる要因として人工骨頭挿入術・骨接合術とでは離床に差があるのか。また、受傷前の日常生活自立度が自立に近いほど離床が早く受傷前の日常に戻ることができるよう有効な介入方法を導き出したい。さらに今後大腿骨近位部骨折患者の看護やリハビリを行うにあたり、患者の早期離床促進に向けた効果的な関わりにつなげていきたい。

[研究の目的]

離床の遅延につながる要因として人工骨頭挿入術¹⁾・骨接合術²⁾での差があるか実態を明らかにし効果的な介入を目的とします。

1) 人工骨頭挿入術とは、大腿骨(太ももの付け根の骨)の骨頭が壊死したり、頸部が骨折したりした時に、大腿骨の骨頭を人工のものに置き換える手術のことです。

2) 骨接合術は骨を金属などの器具で固定して折れた部分をつなぎ止める手術のことです。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

大腿骨近位部骨折の患者さんで、西暦2021年4月1日から西暦2024年3月31日の間に長崎医療センターで人工骨頭挿入術または骨接合術を受けた患者さん

●研究期間：倫理審査委員会承認後から西暦 2025 年 3 月 31 日

●利用するカルテ情報

対象者の基本情報：

年齢、性別、身長、体重、主病名、既往歴、合併症、受傷前の日常生活動作
(日常生活 J1,J2・日常生活自立度 A1～C2)

●情報の管理

カルテ情報は、長崎医療センター内で集計、解析が行われ、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

この研究は、長崎医療センターのみで行われます。

[個人情報の取扱い]

研究に利用する個人情報は、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける対照表を当院の研究責任者が作成し、診療情報との照合などの目的に使用します。対照表は、情報管理者が責任をもって適切に管理いたします。

情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

ご自身の試料や情報を研究に使わないでほしいと希望されている方も、下記の連絡先までご連絡ください。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、国立病院機構長崎医療センターにおける診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益を被ることはありません。

[問い合わせ先]

国立病院機構長崎医療センター

6B 病棟看護師 野崎 友香

電話番号：0957-52-3121 (代表)